

3/5 NPO法人埼玉消費者被害をなくす会
**全国で7団体目となる
 「適格消費者団体」に認定**



野田聖子消費者行政推進担当大臣から認定通知証が交付されました

県内の消費者・消費者団体との活動を基礎に、17年間(2004年以降はNPO法人として)活動してきた実績が認められ、内閣総理大臣より消費者契約法に基づく「適格消費者団体」(*)として認定されました。制度の活用が期待される中、消費者の利益や権利が確保される社会に向けて一層活動をすすめていきます。

※消費者全体の利益を擁護するため、一定の要件を満たす消費者団体を「適格消費者団体」として認定し、その団体に事業者の不当な行為に対する差止請求権(消費者団体訴訟制度)を認めている。

3/19 **第2回埼玉県生協役員研修委託事業
 生協法改正に伴う監事監査基準の
 改定について学習**



講師は日本生協連会員支援本部の遠藤修二さん

2008年の改正生協法により監事の役割や監事監査基準も大きく変更されたことから研修会を開催。14生協(連)・ほか57人(未加盟生協含む)が参加しました。改定は会社法をベースとした監事の職務権限の明確化や同法並みの監査を生協に求める内容となっていて、監事の職務権限強化の主な改定事項や監事監査の環境整備の重要性等について学びました。

埼玉県生協連写真ニュース

発行:埼玉県生協同組合連合会 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-11-5 TEL 048-844-8971 URL http://saitama.kenren-coop.jp

2009 春号 No.30



埼玉県生協ネットワーク協議会

学んだら広がる交流したら想いが伝わってくる

組合員どうしのネットワークを広げ、消費者の願いを発信していく事を目的に活動している生協ネットワーク協議会は、県内6生協(*)が加盟し、学習や交流を大切に活動しています。県の委託事業として「公開学習会」を開催。また協同組合どうしの交流として毎年、JA埼玉県女性組織協議会と交流しています。

※生協ネットワーク協議会は、さいたまコープ、医療生協さいたま、ドゥコープ、さいたま住宅生協、さいたま高齢協、埼玉県勤労者生協が加盟



グループに分かれ交流



JAひびきの「こだま館直売所」を視察

2/15

JA埼玉県女性協との第14回早春交流会 交流を通じお互いが見えて

JA埼玉ひびきの児玉営農経済センターを会場に64人が参加。JA埼玉ひびきの「女性部」や地場農産物を中心に加工品づくりを行っている「ひびきの工房」の活動が紹介されました。また隣接する「こだま館直売所」で採れたて野菜や加工品の販売等を視察し、生産者の苦勞や楽しさ、また消費者の思いを交流しました。

2/16

公開学習会 「男女共同参画」は 正しい理解とできる事から

「男?女?み～んなたいせつ・み～んないっしょ」をテーマに開催し、54人が参加しました。講師の田中さんは、日本は国連条約を批准し1999年に男女共同参画社会基本法を制定したが「国際社会からみると日本の男女平等は遅れており、正しい理解とできる事から変えていく努力、社会の仕組みの整備・充実が重要」と呼びかけました。

お話される
 国際女性の
 地位協会理事の
 田中美子さん



県議会各政党・会派との懇談会
**消費者行政の充実や食の安全の
 問題等について懇談**

生協の取り組みや消費者行政一元化の問題等、県議の皆様と懇談・意見交換しました。食の安全の問題では中国産冷凍餃子事件以降、生協が信頼回復に向けた取り組みを進めている事や、市町村の消費者行政充実及び消費者庁実現のための支援を要望しました。



12月2日 自民党3役員5人との懇談。あいさつされる連見団長



12月9日 民主党・無所属の会18人(22人中)との懇談。あいさつされる高橋代表



12月12日 公明党の福永副団長をはじめ5人との懇談



12月22日 日本共産党の柳下議員と山川議員との懇談

ユニセフ募金 約20年間の累計で約3億円を贈呈

組合員の皆さんと共に2008年度もユニセフ募金に取り組み、2月20日までの1年間で一般募金が1,446万円となりました。2月28日、(財)日本ユニセフ協会埼玉県支部主催の「ユニセフのつどい in Saitama」において、募金の目録を贈呈。2008年度はこの他、ミャンマー・サイクロン被害の緊急募金400万9,898円もお贈りしています。今後も引き続き、ユニセフ募金に取り組んでいきます。



さいたまコープ

くらし見直し講演会 「100年に1度の経済危機から家庭を守るために!!」

くらし福祉委員会・テーマグループLPA(ライフプラン・アドバイザー)の主催で2月18日に開催。講師はTBS「はなまるマーケット」や著書「サラリーマンは二度破産する」でお馴染みの藤川太さん(家計の見直し相談センター代表)。かねてからの経済危機で家計に不安を感じている方が多いためか、当日は63人の参加者で会場いっぱいとなりました。



ドゥコープ

六ヶ所再処理工場反対の 請願のための院内集会

生活クラブ埼玉では「核燃料再処理工場の稼働に反対し、その中止を求める」請願署名34,463筆を、大河原雅子議員、川田龍平議員、近藤正道議員、下田敦子議員、福島みずほ議員、淵上貞雄議員を通じ国会に提出します。2月24日、請願のための院内集会を参議院議員会館にて開催し組合員約100人が参加。命と環境を最優先する、心からのメッセージを伝えました。



生活クラブ生協

産直連続講座 安全・安心!なおかつおいしいみかんの産地

愛媛県の有機栽培みかんの産地である「無茶々園」から専務の津清次さんを招き学習会を開催しました。1974年農業・化学肥料の多投される農業に危機感を持った3人のメンバーでスタートし、現在80軒以上の農家がみかんを栽培。地域と一体化した環境保全に取り組んでいます。「山からとったものをそのまま届けたい。外見で評価しないで」の言葉に納得の講座でした。



埼玉県勤労者生協



この紙は再生紙を使用しています 印刷は環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

92人の認知症サポーターが誕生!

2月28日、さいたま市主催の認知症サポーター養成講座が認知症キャラバンメイト(地域包括支援センターサンビュー埼玉主任ケアマネジャー:松本由美子さん)を講師に開催。講座は医療生協さいたまがさいたま市に開催を依頼したもので、92人の組合員が参加しました。学習した全員が認知症を支援する目印のオレンジリングを受け取り、厚生労働省認定の認知症サポーターになりました。



医療生協さいたま

親子で気軽に参加できる 「ぼうさいカフェ in さいたま」

2月21日、災害を理解し防災の意識を高めてもらうことを目的に開催。会場いっぱいの親子69人が参加しました。防災科学研究所理学博士の納口恭明さん扮する「Dr.ナダレンジャー」による、ペットボトルなど身近な小物を使って災害のメカニズムを体験・学習する「科学実験ショー」や、災害時の行動を「YES」「NO」で答えたり、意見を述べ合うゲーム等、参加者は楽しみながら防災を学びました。



全労済埼玉県本部

4月の介護保険改定と これからの地域福祉を学習

2月1日講演会を行い、約50人が参加しました。東大名誉教授の大森彌氏による「2009年度介護保険制度改定の方角」と題した講演では、介護保険改定の内容や方向等を、続いて行われた大森氏と所沢市職員の鏡諭氏の対談では、介護現場での保険でまかないきれない問題や、地域福祉の点からも課題が残されていること等、自治体の現場からの報告として話されました。



さいたま高齢協

身近なところから平和を考え行動 折鶴を折ろう2008の取り組み

埼玉大学生協学生委員会では「身近なところから平和を考え行動しよう」と、夏に第一食堂と第二食堂の2カ所で組合員に折鶴を折ってもらい、1日約400羽、全体で3,519羽の折鶴が短期間に集まりました。また、広島、長崎、沖縄に送る「巨大折鶴」にメッセージを書いてもらう取り組み等、参加した組合員が平和について考えるきっかけになりました。



埼玉大学生協